



神野藤 昭夫監修・解題

物語文学 研究叢書

全26巻／別冊解題

クレス出版



『物語文学研究叢書』の刊行にあたって

神野 藤 昭 夫

近代国文学百年のうちの後半、いわゆる戦後五十年余りの間に、『源氏物語』の研究は飛躍的に深まった。おそらく『源氏物語』九百年の研究史のなかで、もっとも充実した半世紀であったと評しえよう。

しかし、その反面、文学として屹立する『源氏物語』の圧倒的な輝きの前に、その他の物語の存在とそれらに関する優れた研究に、正当な評価と栄誉が与えられたとはいにくい状況を生み出してもいた。とくに平安後期以降の物語について、その感が深い。

しかるに、昨今、『源氏物語』研究の成熟にともない、初期はもとより後期以降の物語にもあらためて目が向けられるようになり、『源氏物語』で培われた読みの方法を主たる武器として、精細な読みなおしの機運が深まってきている。そればかりではない。『源氏物語』を物差しに、他の物語の価値を測るのではなく、個々の物語の特性と固有の価値を見出すとともに、微視に傾きがちなる研究をもういちど巨視の目で物語全般を捉えかえそうとする反省が出てきているとおぼしい。

その典型的な例は、擬古物語として一括され、好笑的にしか扱われてこなかった鎌倉時代以降の物語群の発掘と再評価であろう。これに中世王朝物語の名辭が与えられ、信頼できるテキストが提供され、注釈や全訳作業が進み、その本質を論ずる研究がいつきよに開花することとなった。それによって、王朝物語との連続性と不連続性をどう押さえるかといった問題や、残された物語群だけではなく散逸した物語世界をも視野に入れることの重要性、さらには室町時代物語との繋がりなど、物語史のさまざまな問題が研究課題として浮上してきている。

このような研究状況のなかで、物語史を展望し、個々の物語の研究を足元から固める基礎となる、過去の研究遺産があらためて強く求められるようになってきている。

しかるに、そうした研究遺産は、今日ではきわめて手に入りやすく、大学・短大等の図書館や研究室においても完備されているとはいいがたいのが現状ではあるまいか。

本叢書は、明治から昭和三十年代までに刊行されたもので、一般に入手が困難になっているものを対象として、今後の物語研究に資する著作を、個々の物語を扱ったものと物語を広く扱ったものとに二大別し、選り出したものである。これらは、物語文学研究の基本図書であることはもとより、研究史のうえで逸することのできないもの、価値を持ちながら流布することの少なかったもの、戦中戦後の粗悪な紙質のために保存状態が危惧されるものなど、さまざまな点から検討を加え、決定した。若き研究者はもとより、その道の専門家にとっても垂涎の書を多く含むと信ずる。

選書にあたっては、復刻のあるものは原則として対象外とし、著者や故人のご遺志あるいは元版の出版社のご意向によつてはさざるをえなかったものもある。したがって、決定版とはゆかないものの、現段階における、過去が未来に甦るきわめて意義深い研究叢書として刊行できることとなったと考えている。物語学にとって必備の研究叢書として、各種図書館や研究機関、物語研究を専門とする研究者はもとより、古典に関心をもつ江湖の方々にお勧めしたいと思う。

(かんのとうあきお・跡見学園女子大学文学部教授)

夜半の寢覺 卷三

一五四

なになり袖の水解けずと嘆き明かし給ひてし朝より、餘り萬の(一)ことわりを思ひ許し、心をもあながちにのどめ過す、ことわりも過ぎてさめやかに怨めしく、人目恥かしきまで思し知らるれば、いかゞ宣ひ思しなる、いとほしともや思し弱る氣色見ゆると、心見るとて御消息もなく、宮へ参り給ふついでにも、南の御簾の内にて、内大臣(二)姫君は如何にと許り淺はかにて、やがて立ち入らで、内大臣(三)我が君をも我を思はざ、母な暫し見奉り給ひそと、内大臣(四)我をいみじく憎み給へば、心憂しと云ひ知らせて渡し奉り給はず、跡絶えするやうにて年も返りぬるを、心知る人嘆きいとほしがれど、過ぎにし方は、中々淺はかなるものに恨みられ奉らんは苦しいなど、亂れ給ひし人知れぬ御心の内なれど、今はあながちに、靡き奉りても、何の目安き事かあらむとする、後の宮の御心捉見もて行く、いと物恐ろしく、まいて如何ばかりか心憂き事あらん、見果てぬ夢の世をあながちに恨み寄り給ふも、さすがに今始め、はしたなめ給ふべきにもあらず、云ひ遣る方無くのみ覺ゆるを、かくて思し絶え疎みたらん(五)え

(一)なになり袖の水解けずと嘆き明かし給ひてし朝より、餘り萬の(二)ことわりを思ひ許し、心をもあながちにのどめ過す、ことわりも過ぎてさめやかに怨めしく、人目恥かしきまで思し知らるれば、いかゞ宣ひ思しなる、いとほしともや思し弱る氣色見ゆると、心見るとて御消息もなく、宮へ参り給ふついでにも、南の御簾の内にて、内大臣(三)姫君は如何にと許り淺はかにて、やがて立ち入らで、内大臣(四)我をいみじく憎み給へば、心憂しと云ひ知らせて渡し奉り給はず、跡絶えするやうにて年も返りぬるを、心知る人嘆きいとほしがれど、過ぎにし方は、中々淺はかなるものに恨みられ奉らんは苦しいなど、亂れ給ひし人知れぬ御心の内なれど、今はあながちに、靡き奉りても、何の目安き事かあらむとする、後の宮の御心捉見もて行く、いと物恐ろしく、まいて如何ばかりか心憂き事あらん、見果てぬ夢の世をあながちに恨み寄り給ふも、さすがに今始め、はしたなめ給ふべきにもあらず、云ひ遣る方無くのみ覺ゆるを、かくて思し絶え疎みたらん(五)え

(二)いいて如何ばかり内大臣に

そ年ら思ひしよりも夏の夜の

どれ程に残念な事であらうかと

(三)内大臣に

見果てぬ夢ぞはかなかりける

少しも内大臣から便りのない

(四)内大臣

今更には内大臣が恨み寄るの

じく平穩に事もなく普通と同じ

(五)え

絶えぬ夢の世を後撰

絶えぬ夢の世を後撰

濱松中納言物語

卷一上

孝養の志深く思ひ立ちにし道なればにや、恐ろしく遙かに思ひやりし浪の上なれど、荒き浪風にも遇はず、思ふかたの風なむ、ことに吹きおくる心地して、唐土の温嶺といふ所に、七月上の十日におはしまし著きぬ。其處を立ちて、杭州といふ所に泊り給ふ。その泊、入江の湖にて、いと面白きにも、石山の折の近江の海思ひ出でられて、あはれに戀しきこと限りなし。

中納言別れにし我が故郷のにほの海に影をならべし人ぞ戀しき
それよりこぼうたうに著き給ふ。いと面白くて、人の家ども多くて、日本の人著き

第9巻 校註夜半の寢覺 見本

そ年ら思ひしよりも夏の夜の

どれ程に残念な事であらうかと

見果てぬ夢ぞはかなかりける

少しも内大臣から便りのない

今更には内大臣が恨み寄るの

じく平穩に事もなく普通と同じ

絶えぬ夢の世を後撰

絶えぬ夢の世を後撰

第8巻 浜松中納言物語 見本

(一)今唐土の三の御子に
(二)中納言の志が深くて
(三)唐土の三の御子に
(四)唐土の三の御子に
(五)唐土の三の御子に
(六)唐土の三の御子に
(七)唐土の三の御子に
(八)唐土の三の御子に
(九)唐土の三の御子に
(十)唐土の三の御子に

卷一上

孝養の志深く思ひ立ちにし道なればにや、恐ろしく遙かに思ひやりし浪の上なれど、荒き浪風にも遇はず、思ふかたの風なむ、ことに吹きおくる心地して、唐土の温嶺といふ所に、七月上の十日におはしまし著きぬ。其處を立ちて、杭州といふ所に泊り給ふ。その泊、入江の湖にて、いと面白きにも、石山の折の近江の海思ひ出でられて、あはれに戀しきこと限りなし。

中納言別れにし我が故郷のにほの海に影をならべし人ぞ戀しき
それよりこぼうたうに著き給ふ。いと面白くて、人の家ども多くて、日本の人著き

第9巻 校註夜半の寢覺 見本

そ年ら思ひしよりも夏の夜の

どれ程に残念な事であらうかと

見果てぬ夢ぞはかなかりける

少しも内大臣から便りのない

今更には内大臣が恨み寄るの

じく平穩に事もなく普通と同じ

絶えぬ夢の世を後撰

絶えぬ夢の世を後撰

物語文学研究叢書 全26巻構成

第1巻

竹取物語の研究 本文篇

●新井信之著／昭和19年／図書出版
若くして逝った著者の、『竹取物語』伝本十種の厳正な翻刻。未完に終わった校異資料篇と解説篇の前提となる本文篇。叢書の判型に大きさを揃えた。

第2巻

竹取物語の研究 校異篇・解説篇

●中田剛直著／昭和40年／塙書房
新井信之の意図を継承し、木活字十行甲本をもとに校異篇を、さらに『竹取物語』諸伝本の研究を解説篇で完成させる。新井信之の本文篇と併用されるべき著書。

第3巻

新修竹取物語

●沢瀉久孝監修、小島憲之編／昭和28年／白楊社
絵入本「たけとり物語」を底本に本文を定め、重要語句索引を付す。副読本用テキストとして編まれたもの。

新修竹取物語別記

●塚原鉄雄著／昭和31年／白楊社
『新修竹取物語』の指導書。『竹取物語』の注釈史のうえで見逃すことのできない見解を数多く含む。非売品であったために、研究者にも入手しがたかった書。

第4巻

宇津保物語研究

●富沢美穂子著、関みさお補訂／昭和13年／至文堂
四五歳で亡くなった著者の遺稿集。『宇津保物語』単独の研究書としては嚆矢をなすもの。

第14巻

古代小説史

●長谷川福平著／明治36年／富山房
平安から室町に及ぶ物語草子を解題的に論ずる。付録として、散逸物語名を典別に掲載する。

第15巻

物語の様式

●森岡常夫著／昭和16年／弘文堂書房
岡崎義恵の提唱した日本文芸学の立場から、物語の様式を論ずる。

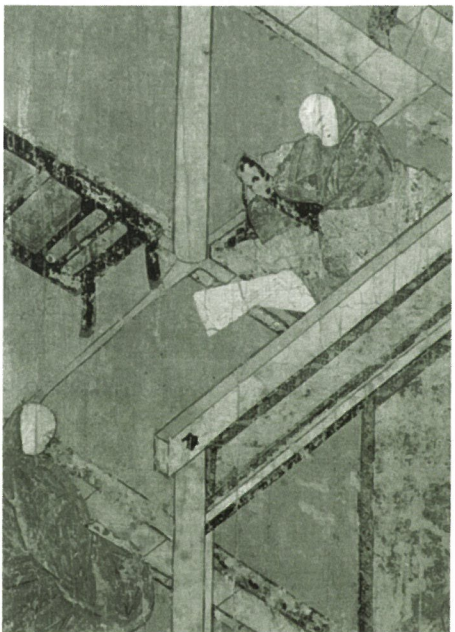
第16巻

物語文学 日本文学大系

●池田亀鑑著／昭和13年／河出書房
物語文学の様式・本質・構成の三点から、これを総合的に論ずる。

物語文学 日本文学教養講座

●池田亀鑑著／昭和26年／至文堂
一三講のうち、五講までを物語について説き、六講以下は、個々の物語を各論として講ずる。前著とは異なる意図をもつ。



第5巻

うつほ物語秘琴抄

●石川徹著／昭和25年／川瀬書店
『うつほ物語』のあらましを魅力的に語り、『うつほ』研究入門に最適の書。さらに『浜松中納言物語』の梗概も収める。

第6巻

改訂宇津保物語俊蔭巻考注

●田中初夫著／昭和41年／私家版
万治三年版本を底本とした俊蔭巻の注釈書。謄写刷二冊本の改訂版による。

第7巻

狭衣物語 全訳王朝文学叢書

●吉沢義則著／大正13年／王朝文学叢書刊行会
『狭衣物語』の注釈は進んだが、現代語訳は、本書と中村真一郎訳があるのみ。このような研究の現況に本書再刊の意義がある。

第8巻

浜松中納言物語 新註国文学叢書

●宮下清計著／昭和26年／大日本雄弁会講談社
巻四までは丹鶴叢書、巻五は尾上本を底本とする、『浜松中納言物語』本格的な注釈と研究。池田利夫編『浜松中納言物語総索引』の底本。叢書の判型に拡大し、読みやすさに配慮を加えた。

第9巻

校註夜半の寝覚

●藤田徳太郎・増淵恒吉編著／昭和8年／中興館
『夜の寝覚』の研究史を切り開いた注釈とその本格的研究。

第17巻

物語文学概説

●南波浩著／昭和29年／ミネルヴァ書房
物語文学の出現した社会、担った階級、形成の必然性など、歴史社会的な観点から、体系的に論ずる。

物語文学

●南波浩著／昭和33年／三一書房
物語文学の歴史たる伝承の担い手たちの解明から『竹取』『伊勢』への成立の軌跡を追う。

第18巻

物語文学攷 平安時代

●宮田和一郎著／昭和18年／文進堂
平安時代の物語文学に関する論考を集める。語法的研究への関心を特色とする。

第19巻

平安時代 前期(上) 日本文学史

●西下経一著／昭和17年／三省堂
未完に終わった日本文学史の第一回配本。前期物語についての新知見を含む。

第20巻

日本小説史論

●藤田徳太郎著／昭和14年／至文堂
個々の論考を、古代小説・中世小説・近世小説に分けて集める。体系性にはやや欠けるが、今日なお見るべき論考を含む。

第21巻

王朝文学の歴史と精神

●藤田徳太郎著／昭和16年／楽浪書院
文学史の観点から、王朝文学の論考をまとめたもの。物語に関する論考を多く含む。

第10巻

住吉物語通釈

●菅崎博道著／明治36年／公論社
寛永九年刊本を主として本文を定める。緒言に「この書、その名は古より世に聞えたれど、いまだ之が解釈を試みたるものあるを聞かず」(緒言)と述べる。

註解新訳住吉物語

●藤井乙男・有川武彦著／昭和3年／東京成象堂
本文は、富岡謙蔵所蔵本・住吉文庫本等を底本に、不明箇所を鈴鹿本で校訂。頭注と訳を加える。国文新訳文庫を叢書の判型に拡大して、読みやすさに配慮を加えた。

第11巻

校註篁物語 附新校篁物語

●宮田和一郎著／昭和11年／爾保布廻園
宮内庁書陵部本と彰考館本二本を用いて、本文を定め、この物語最初の注釈を加え、さらに彰考館本の一本を忠実に翻刻。他の二本との校異を示す。

校註海人刈藻

●宮田和一郎著／昭和23年／養徳社
●宮田和一郎著／昭和19年／天理時報社
中世王朝物語『海人刈藻』の最初の注釈。さらにその研究と詳細な年立を含む論考を『古典文学』より付載する。

第12巻

大鏡成立論攷

●梅原隆章著／昭和27年／顕真学苑
歴史学の立場から、大鏡の著作年代と作者について論ずる。

第13巻

栄華物語詳解補註

●岩野祐吉著／昭和29・31年／私家版
和田英松・佐藤球『栄華物語詳解』(明治40年)の補注を意図したもの。精細な考証を展開する謄写刷の稀覯書。

第22巻

平安朝文芸の精神

●窪田空穂著／昭和21年／西郷書房
研究者であると同時に歌人であった空穂は、『伊勢物語注釈』を二度にわたって著している。空穂の『伊勢物語』の作者と文芸性を説く論を含む平安時代文学論。

第23巻

中古日本文学の研究

●堀部正二著／昭和18年／教育図書
新たな文献資料の発掘と解説によって緒論を展開する。文献学的方法による今日なお古びない名著。

第24巻

説話文学と絵巻

●益田勝実著／昭和35年／三一書房
物語文学をより広い視野から捉えなおそうとするときの必読書。説話と文字との出会いに文学の方法を見出すところに特色がある。

第25巻

日本文学論考

●清水泰著／昭和35年／初音書房
継子物語や奈良絵本の研究の基礎的文献。これまで流布すること少なく、参看されることの少なかった憾みが解消されることになろう。

第26巻

室町時代小説論

●野村八良著／昭和13年／巖松堂書店
室町時代物語を大きく仏教的色彩の濃淡に分け、さらに下位区分を施して、代表的な物語を総合的に論ずる。室町時代物語研究の基礎文獻。

物語文学研究叢書

全26巻／別冊解題

神野藤 昭夫監修

A5判、上製函入クロス装、本文クリーム中性紙使用

第1回配本 全13巻(第1巻～第13巻) 揃定価115,000円(税別)

1999年4月末日刊 ISBN4-87733-066-6 C3393

第2回配本 全13巻(第14巻～第26巻) 揃定価110,000円(税別)

1999年9月末日刊 ISBN4-87733-067-4 C3393

別冊解題 神野藤昭夫著 定価2,000円(税別)

第2回配本時刊 ISBN4-87733-068-2 C3393

フレス出版好評既刊書 (定価は税別)

源氏物語研究叢書

全17巻 日向一雅監修・解説

明治から昭和二十年代までを中心として、源氏物語の主要な研究書を網羅。近代における研究史を顧みること、細分化し多様化した研究を統合。揃定価一七五、〇〇〇円

近世文芸研究叢書

全63巻 近世文芸研究叢書刊行会編・解説

近世文学・芸能に関する明治大正に刊行された名著稀書を復刊。

- 第一期文学篇全23巻 揃定価二九一、〇〇〇円
- 1、通史 全7巻 揃定価八〇、〇〇〇円
- 2、一般 全7巻 揃定価九六、〇〇〇円
- 3、作家 全9巻 揃定価一一五、〇〇〇円
- 第二期芸能篇全40巻 揃定価五五八、〇〇〇円
- 1、歌舞伎I 全10巻 揃定価一三五、〇〇〇円
- 2、歌舞伎II 全10巻 揃定価一三八、〇〇〇円
- 3、浄瑠璃 全10巻 揃定価一四五、〇〇〇円
- 4、舞踊・邦楽・諸芸・雑纂 全10巻 揃定価一四〇、〇〇〇円

芭蕉研究資料集成

全39巻 久富哲雄監修・解題

俳諧の世界のみならず、日本文学全体に多大な影響をおよぼした芭蕉の没後三百年を記念して、人物・作品の価値ある研究書を集成。

- 明治篇全9巻 揃定価一〇六、〇〇〇円
- 大正篇全11巻(合品切) 揃定価一五〇、〇〇〇円
- 昭和前期篇全19巻 揃定価二七五、〇〇〇円

蕪村研究資料集成

全17巻 久富哲雄・谷地快一監修・解題

日本・中国を問わず、古典に親しみ、俳諧に絵画に、自在なる境地を志向した蕪村の明治・大正期に刊行された基礎的研究資料を集成。

揃定価一八六、〇〇〇円

西鶴研究資料集成

全8巻 竹野静雄監修・解題

江戸時代の浮世草子作者・俳諧師井原西鶴の没後三百年を記念して、明治大正、昭和初期に発表された資料約四七〇点を纏めて刊行。

揃定価一二六、〇〇〇円

若月保治浄瑠璃著作集

全7巻 秋本鈴史・和田修・林久美子・坂口弘之解説

浄瑠璃研究の第一人者若月保治の代表作を復刻。

- ① 近松人形浄瑠璃の研究 定価二二、〇〇〇円
- ② 人形浄瑠璃史研究 定価二五、〇〇〇円
- ③ 近世初期国劇の研究 定価一三、〇〇〇円
- ④ 古浄瑠璃の研究 全四巻揃定価九五、〇〇〇円

俚言集覧 自筆稿本版

全11巻 太田全斎編 ことわざ研究会監修・解題

江戸時代の代表的な三大国語辞書の一つ『俚言集覧』の唯一の稿本を『移山伊呂波集』とともに復刻。活字本にはない凶像や刺記、書き込み等も多く、研究者に新たな資料を供与する。

揃定価一五〇、〇〇〇円

徳川三百年人物大鑑

全5巻 長田偶得編

徳川三百年間に於ける思想界に勢力のあった碩学鴻儒、文学者美術工芸家名僧、義人烈士等七二名の伝記集。年譜・肖像画付。

揃定価七六、〇〇〇円

日本鹿子

磯貝舟也著 久富哲雄解題

元禄四年三月刊行の、全国的な道・国別の地誌十五巻を復刻。城・陣屋・神社・仏閣・名所・名物等を詳細に記述する、江戸文化研究者必携の書。

定価一八、〇〇〇円

影印つき錦繡段・三體詩・古文真寶

久富哲雄編・解題

江戸期に刊行された貴重な振仮名つき漢詩文集を復刻、『錦繡段』『三體詩』は、天和版と元禄版の二種類を収録。近世の文学作品読解の参考となる文献集。

定価一〇、〇〇〇円

市島春城随筆集

全11巻 藤原秀之解説

新聞記者、政治家、図書館人、文人春城——彼の体験や交友、早稲田や大隈重信、趣味である古書、書翰蒐集や印章などを綴った随筆を刊行。

揃定価一〇二、〇〇〇円



株式会社 フレス出版

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 ×ローナ日本橋
☎03(3808)1821 FAX03(3808)1822 http://www.kress-jp.com/